

平成25事業年度「業務の実績に関する評価結果」における評価委員会意見への対応状況

区分	項目別評価【特記事項】における課題・意見（小項目番号） [委員会評価]	掲載頁	各関係部局等における対応状況	担当部局等
【定員充足率の改善】（No.22）[2]				
教育	<ul style="list-style-type: none"> 企業・行政機関の訪問や学部生へのアンケート調査などに加え、次年度の進学者増に向けた取組としてイングリッシュトラック制の導入の決定が行われているが、大学院総合学術研究科の定員充足率については、数値目標を大きく下回り、また、前年度を下回っている。学生や社会のニーズを踏まえ、具体的な改善方策の検討をされたい。 	8	<p>【総合学術研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学院総合学術研究科の各専攻の状況に応じて、定員充足率の改善に資する次の取組を行った。 <ol style="list-style-type: none"> 経営情報学専攻について、経営専門職大学院（MBA）の開設予定を念頭に、同専攻を、情報学を中心とする「情報マネジメント専攻」に変更する案をまとめ、文部科学省（大学設置室）と「名称変更」の事前相談を行った。その結果、平成27年3月18日付けで、大学設置・学校法人審議会大学設置分科会運営委員会から事前相談結果の伝達があり、名称変更の手続きで「可」となった。そこで、所定の手続きを経て、「情報マネジメント専攻」の学生募集を平成28年度入試から実施することとし、併せて、募集定員を20人から10人に変更することとした。 生命システム科学専攻において、イングリッシュトラックにおける留学生（募集定員5人程度）の選抜・確保に向けて、英語版の教員紹介パンフレットの作成等、広報活動の強化と受入環境の改善に取り組んだ。 全専攻において、教育・研究情報の発信（ホームページや教員紹介パンフレット等）を強化・充実するとともに、長期履修制度に関する運用規定の見直し（年度単位から学期単位への変更）を行い、社会人にとって更に修学・履修しやすい環境の改善に努めた。また、人間文化学専攻において、「社会人学生の受入れ環境の改善に資する方策（申し合わせ）」を決定し、社会人学生の受入れを積極的に推進することとした。 	大学院総合学術研究科 （以下「大学院」という）
	【英語力の全学的な養成】（No.24）[3]			
	<ul style="list-style-type: none"> TOEICについては、受検促進に資する仕組みづくりに努められたい。 	8	<p>【総合教育C】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成27年度入学生から適用する全学共通教育の新カリキュラム（外国語科目）において、TOEICスコアにより単位認定する「資格英語Ⅰ・Ⅱ」、並びに演習形式の学修により同スコアの向上を目指す「検定英語Ⅰ・Ⅱ」の開設を決定した。（旧カリキュラムにおける「検定英語」2科目から計4科目への増設） また、平成27年度の重点事業として、TOEIC受検料に対する補助制度の新設（試行）を決定し、その運用方法の具体化を図ることとした。さらに、自学自修の成果を可視化するeラーニングの仕組みについて、その導入を予定している。 	総合教育C

区分	項目別評価【特記事項】における 課題・意見（小項目番号） [委員会評価]	掲載 頁	各関係部局等における対応状況	担当部局等
【キャリア・ポートフォリオの活用】(No.34) [2]				
	<ul style="list-style-type: none"> 2年次以上においてキャリア・ポートフォリオが活用されていないが、キャリア・ポートフォリオの活用は、学生が自身のキャリアについて可視化し、自ら考え、評価することにより、主体的な能力開発や行動習慣を身につけることにつながると考えられるので、学生が積極的に活用するための動機づけや仕組みの改善などに取り組まれない。 	9	【総合教育C】 <ul style="list-style-type: none"> 2年次生を対象としたキャリア・ポートフォリオ活用のためのガイダンスを各学部と連携して学科ごとに実施し、その活用を促した。また3年次生に対しては、就職ガイダンスにおいて、自己分析・自己PRに同ポートフォリオの活用が有益であることを説明した。 また、チューター等との面談・指導に活用しやすいファイル形式のキャリア・ポートフォリオ・ブックの導入を決定し、同ブックの配布に係る経費を平成27年度重点事業の一つとして予算化した。 	総合教育C 各学部
【秋入学制への対応】(No.43) [4]				
	<ul style="list-style-type: none"> イングリッシュトラック制の導入を契機として、今後カリキュラムのグローバル化を含めた一層の国際化に取り組まれない。また、1年間の授業期間を4つに分ける「クォーター制」についても、今後、研究されたい。 	10	【総合教育C】 <ul style="list-style-type: none"> 国際化に係る取組の一つとして、平成27年度入学生から適用となる全学共通教育の新カリキュラムの中で「広島と世界」科目群を新設するとともに、学部横断プログラムとして「異文化間コミュニケーション認定プログラム」の導入を検討し決定した。 クォーター制については、広島大学等、他大学での議論や導入に関する情報収集に努めた。 平成27年度開講の全学共通教育科目「日本語I～IV」（留学生対象）において、週2コマ授業（8週で終了）の実施を試行し、その教育効果の検証を行うこととした。 【人間文化学部健康科学科】 <ul style="list-style-type: none"> 平成27年度から、3年次後期開講の専門教育に係る講義科目を週2コマ実施（後期前半で終了）し、病院や保健所・保健センターでの臨地実習の早期化（従来は4年次前期に設定）を図るなど、学事暦（アカデミック・カレンダー）の柔軟な運用を試行することとした。なお、健康科学科においては、実験・実習科目の配当・時間割編成は、従来からクォーター制に準ずる方法（前・後期のそれぞれ前半・後半に分けて配置）によっている。 	総合教育C 各学部・大学院

区分	項目別評価【特記事項】における 課題・意見（小項目番号） [委員会評価]	掲載 頁	各関係部局等における対応状況	担当部局等
			<p>【生命環境学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部に国際交流サロンを設置するとともに、ラーニングコモンズを活用した語学担当教員による英語学習支援を行った。 <p>【保健福祉学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健福祉学部では、従来から部分的にクォーター制に類似した授業科目の配置（時間割編成）を行っている。しかし、学年始めの時期や通年科目の存在など、グローバル化の障壁となり得る学事暦上の課題も存在することから、連携大学の意見も踏まえて、その解決に資する検討を開始している。 	
【学修支援】(No.44) [3]				
	No34 と同文（再掲）	10	No.34 参照	総合教育C 各学部
【競争的資金の獲得支援】(No.57) [4]				
研究	<ul style="list-style-type: none"> ・ 間接経費の還元等の制度や間接経費の使途等に関する情報を広く学内で共有し、教員の外部資金獲得意欲の向上に努められたい。 	11	<p>【財務課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 間接経費の還元額（一部相当額）の各学部等における使途・効果を把握するため、各学部等に対し実績報告書の提出を課すこととした（関係要領の改正，平成26年8月29日施行）。 <p>【経営企画室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員業績評価制度の改善及び給与反映等に関する検討を目的として，平成26年度に設置した「教員業績評価制度検討部会」において，外部資金獲得意欲の向上に資する評価基準のあり方に関する検討も併せて実施することとした。 	財務課 経営企画室
【地域貢献・連携活動への学生の参加促進】(No.71) [3]				
地域 貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き，学生の主体的な地域貢献・連携活動への参加を促すとともに，これらの活動が，地域の活性化に資するものとなっているか，学生の成長につながっているかを検証する仕組みづくりについて検討されたい。 	13	<p>【地域連携C】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の主体的な地域貢献・連携活動への参加による効果検証のために，事業終了後に事業の関係者と参加学生の双方から，面談による情報収集を行った。その結果，「祭り等の行事の企画・運営に学生が参加することで，マンネリ化を防ぐことができ，参加者も増えた。」（事業関係者・住民），「地域住民の方々に感謝され，自信になった。」「地域貢献活動に対して興味と関心が広がった。」「地域の特性や課題について，今まで以上に考えるようになった。」（何れも，参加学生）など，肯定的な評価が多く聞かれ，学生の参加が，双方に良い効果をもたらしていることが分かった。 	地域連携C 総合教育C 各学部・大学院

区分	項目別評価【特記事項】における 課題・意見（小項目番号） 〔委員会評価〕	掲載 頁	各関係部局等における対応状況	担当部局等
			<p>【総合教育C】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 26 年度においては、複合科目「地域の理解」「地域情報発信論」において、地域の課題に肌で触れるアクティブ・ラーニングを実施した。また、平成 27 年度から開講する「広島と世界」科目群が学生の成長につながるよう、授業の目標・内容・評価基準等を具体的に策定した。 <p>【人間文化学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際文化学科においては、複数の科目で地域の文化・産業・社会への関心を深める目的で、従前から実施してきた学外実習の成果を卒業論文につなげる指導に努めた。 健康科学科においては、学生が、県内産の野菜等を活かしたレシピ「トマト鍋」の開発・普及、公開講座「給食体験講座」の開催等に、積極的に取り組んだ。これらの事業の成果検証を、参加学生の実施報告書（自己評価や課題の抽出等）や来場者の評価や公開講座受講者を対象とするアンケート調査の結果等に基づいて、学生の学修成果や成長の観点から、事業ごとに試みている。（別紙参照） <p>【経営情報学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 経営情報学部の 2 学科では、専門知識を生かし、学生が企業や地域の種々のイベントに参画し、多くの事例で地域の活性化に貢献した。今後は、「フィールドスタディ」という領域を充実し、学部教育の特徴の一つとしていくことを目指している。 <p>【生命環境学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> フィールド科学教育（講義、実習、卒論）への学生参加を促した。その結果、受講者数は「フィールド科学（1 年次後期）」155 人、「同実習（2 年次通年）」87 人、「同卒論（3，4 年次通年）」受講者 9 人であった。 「地域」に対する学生の理解を深めるため、地域の見学の拡充（世羅夢公園 6 次産業ネットワーク、同公園自然観察園、道の駅たかの、高野りんご園等）など、フィールド科学教育の内容の充実に努めた。 フィールド科学教育・研究の一環として、全国公立大学協会主催の学生交流会に 4 人の学生が参加し、地域との関わりについて、ポスター発表を行った。 <p>【保健福祉学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 佐木島における健康チェック、県内企業や役所との連携・協力による卒業研究の実施など、地域貢献・連携活動への参加を促進した。 	

区分	項目別評価【特記事項】における 課題・意見（小項目番号） [委員会評価]	掲載 頁	各関係部局等における対応状況	担当部局等	
【コンプライアンスの確保】(No.76) [2]					
大学 運営	<ul style="list-style-type: none"> 内部統制のための基本方針については、情報収集、資料収集にとどまり、基本方針の策定には至っていない。 平成26年度中に、基本方針が策定できるように努められたい。 	14	【経営企画室】 <ul style="list-style-type: none"> 平成 27 年 2 月 24 日付で「公立大学法人県立広島大学内部統制基本方針」を制定し、学内ウェブ・サイト及び本学ホームページに掲載するなどして、学内外への周知・公表に努めた。 	経営企画室	
	【教員業績評価制度の適切な運用】(No.78) [3]				
	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、平成28年度を目途とする試験導入をはじめ、教員業績評価制度の給与等への反映に向けた取組に着実に努められたい。 	15	【総務課・経営企画室】 <ul style="list-style-type: none"> 給与への反映を含めた教員業績評価制度の見直しを検討する「教員業績評価制度検討部会」を教員業績評価委員会内に設置し、評価制度における問題点の解消等、諸課題の解決に資する評価制度の構築について検討し、検討部会における今後の方針案（検討内容及び実施スケジュールを含む。）をまとめた。 	総務課 経営企画室	
	【外部研究資金の獲得】(No.84) [3]				
	No. 57 と同文（再掲）	15	No. 57 参照		
【自己点検・評価実施と評価結果の活用】(No.91) [3]					
<ul style="list-style-type: none"> 平成25事業年度業務実績の自己点検・評価に当たって用いた評価規準・評価基準については、今後、より精度を高めて評価内容の客観化に努めるとともに、各年度の自己点検・評価結果を今後の改善につなげ、第二期中期目標の達成を目指されたい。 	15	【業務評価室・目標・計画委員会・各部局等】 <ul style="list-style-type: none"> 平成 26 事業年度業務実績の自己点検・評価に係る評価規準・基準について、業務評価室と目標・計画委員会が中心になって、自己評価に係る精度の向上を図るべく、数値目標が設定されている項目における具体的な取組に基づく評価規準の策定・追加、並びに数値目標の達成状況を評価規準の一つと位置づけるなどの改定により、取組のプロセスや進捗状況を含めて総合的に評価する評価規準・基準への移行を図った。 同様の考え方により、平成 27 事業年度の業務実績に係る評価規準・基準を策定した。 目標・計画委員会主催の「目標・計画に係る説明会」を前期・後期各 1 回開催するなどして、自己点検・評価に係る評価規準・基準の考え方や評価精度の向上、PDCA サイクルを実質的に回し機能させる「内部質保証システム」の重要性等について、学内周知・共有化に努めた。 	業務評価室 目標・計画委員会 各部局等		

学生の主体的な地域貢献・連携活動を通じた地域の活性化及び学生の学修・成長に関する検証の試み

事業・取組の名称・概要等	参加学生による取組の成果等	連携機関等
「ひろしまがいっぱい！トマト鍋」の共同開発とその普及・栄養教育活動		
<p>【取組の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康科学科4年次生の学生3名が、<u>広島市食育推進会議の事業「20代のための食育プロジェクト」</u>に参加し、<u>県内産野菜等（小松菜、キャベツ、シメジ、鶏卵）を多用したオリジナル・メニューのレシピ「ひろしまがいっぱい！トマト鍋」</u>を、<u>JA全農ひろしま・カゴメ株式会社中国支社と共同で開発した。</u> 平成26年9月25日、<u>JA全農ひろしま事務所</u>で、同トマト鍋の発表試食会を開催するとともに、<u>広島市安佐南区の小松菜農家で栽培方法等を学び、農業体験の一つとして、小松菜の収穫作業を行った。</u> 「<u>トマト鍋</u>」の普及と<u>県内産野菜の消費拡大を図るため、レシピカードを作成し、県内のスーパーマーケットや試食会の来場者・学生等に配布し、食育等の観点から分かり易さに留意して説明した。</u> 10月19日、「<u>ひろしま食育の日</u>」に安佐南区の農畜産物直売所で開催された「<u>試食フェア</u>」に参加し、「<u>トマト鍋</u>」を出品した。また、<u>県庁の食堂や本学3キャンパスの学生食堂において「トマト鍋」を提供し、県内産野菜に対する市民や学生の認知度や野菜の摂取量等に関するアンケート調査を実施し、その結果を分析した。（10月～1月）</u> 3月11日、一連の取組の総括となる発表を、<u>榎福屋広島駅前店</u>で開催された上記推進会議主催の「<u>食育プロジェクト・ポスターセッション</u>」において行った。 以上の取組の概要を、健康科学科のホームページに随時掲載し（以下のURL参照）、事業成果の公表に努めた。また、マスコミ各社の報道・放映でも度々取り上げられ紹介されている。 <p>http://www.pu-hiroshima.ac.jp/site/cultural/news260930.html http://www.pu-hiroshima.ac.jp/site/cultural/news270122.html http://www.pu-hiroshima.ac.jp/site/cultural/news270317.html</p>	<p>【参加した学生の学修状況（学生のコメントから）】</p> <ul style="list-style-type: none"> メニュー（レシピ）の共同開発を通じて、<u>企業の方々の仕事の進め方を直に見ることができた。また、事前準備のレベルの高さ・周到さに驚き、社会（企業）で働くことの一部を、模擬体験することができた。何れも、大学での講義や実習では体験できないことで、この事業に参加して、自分なりに少し成長したと感じた。</u> この取組を始めたころは、幅広い年齢層の初対面の方々とのコミュニケーションが上手く取れていないこと、その難しさを実感した。しかし、試食会や学生食堂での提供の機会を重ねるたびに、少しずつ、それを改善することができた。予定していた取組を終えるころには、<u>初対面の人との会話も億劫でなくなり、自分の変化を実感した。そして、卒業後も職場や地域で食育活動を継続したい、と思うようになった。</u> <p>【来場者の学生に対する評価（感想・コメントから）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 取組の総括となった「発表会」では、来場者（250名）から「<u>広島県産野菜を使って、トマト鍋を作ろうと思いました。</u>」「<u>小売店での試食会や食堂での提供など、実際に美味しく食べてもらい、広島野菜を知ってもらう活動が良いですね。</u>」「<u>マスコミを通じての広報活動が充実していた。</u>」などの声をいただき、学生の活動を評価していただいた。 <p>【総括と評価】</p> <p>活動状況や試食・来場者の声、参加学生の振り返りから、地域での連携活動が学生の成長を促進し、社会人への移行を支援していると推察される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・JA全農ひろしま ・カゴメ株式会社中国支社 ・健康科学科 公衆栄養学研究室 <ul style="list-style-type: none"> ・4年次生3名 ・3年次生2名 ・協力者： <ul style="list-style-type: none"> 県立広島大学同窓会、食堂運営業者等

事業・取組の名称・概要等	参加学生による取組の成果等	連携機関等
平成 26 年度 県立広島大学公開講座「給食体験講座：健やかな食生活をめざして」		
<p>【講座の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康科学科 3 年次生の専門教育科目「給食経営管理実習」の新規特別企画（番外編）として、5 月 27 日、県立広島大学公開講座「給食体験講座：健やかな食生活をめざして」を開催し、学生の学修成果の一端を地域住民にご覧いただくとともに、参加者の方々に減塩食やその調理方法に関する理解を深めていただく機会とした。併せて、同日、広島キャンパスの他学科の学生に、この「給食体験」を公開した。 参加者は、地域の方々 32 名（30 歳代～80 歳代の女性 31 名、男性 1 名）、並びに国際文化学科・経営情報学部の学生 79 名であった。地域の方々向けには、年齢、性別、身長、活動強度の情報に基づいて食事量を決定し、<u>700kcal 又は 560kcal の食事</u>を提供した。 地域の方々向けのお食事「四季菜ランチ」の献立は、<u>ちらし寿司、そば、赤魚レモン蒸し、ズッキーニのさっと煮、パプリカとシメジのお浸し、イチゴ</u>でした。また、他学科学生向けの食事として、<u>野菜をしっかり摂取できる 3 種類の定食（A・B・C）</u>を提供した。なお、メニューの詳細、調理風景等は、次の URL に掲載している。（また、本講座の概要は、地域連携センター報（19 号・平成 26 年 10 月 20 日発行）にも掲載している。） http://www.pu-hiroshima.ac.jp/site/cultural/kenkou20140617.html 当日は、<u>3 年生の全員が調理や運営に参加</u>し、各グループリーダーが協力して「薄味で美味しい食事を楽しむためのヒント」を、資料を使って説明した。その後、グループに分かれて受講者と一緒に食事をしながら、学生がそれぞれ質問に答え、栄養指導を体験した。 	<p>【参加した学生の学修状況（学生のコメントから）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の方々や同級生から、「美味しかったよ」「良かったよ」などのお声をいただき、とても嬉しかった。その一方で、質問に対して、返答に詰まることもあったので、<u>しっかり答えられるよう、もっと勉強に力を入れていこう</u>と思いました。このような経験をさせていただき、感謝しています。 高血圧の夫をもつ方や食べ盛りのお子さんを育てた経験をおもちのお母さん（受講者）などのお話は、<u>どの教科書よりも勉強になった</u>気がします。 地域の方々から<u>逆に教わったことや勉強になることが多々あり</u>、管理栄養士として必要な知識やそれを伝える能力がまだまだ不足していることが分かり、<u>更に勉強することの必要性を実感</u>することができました。 調理は余裕をもって行うことができ、<u>少し成長した自分たちを見ることもできたかな</u>、と思います。 今までやってきた試作等の準備を形にすることができ、前回までの<u>実習の反省を活かすことも</u>できました。本当に大変なことが多い実習でしたが、<u>やりがいのある実習</u>でした。 <p>【受講者の学生に対する評価（満足度・感想等から）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学外からの参加者（受講者）32 名全員がアンケート調査に回答（回収率 100%）。29 名が「とても満足」、3 名が「満足」と答えている。<u>満足度 100%の企画</u>となり、受講者から高く評価された。 満足した理由（自由記述）として、「塩分が少なくても美味しく食べられることが分かった。」「<u>減塩について良く理解できた。</u>」「<u>減塩やだしなど、少しずつ実践したい。</u>」などの調理方法・技術の修得の他に、「<u>同席の学生が、とても感じ良く、質問にも丁寧に答えてくれた。</u>」「<u>先生や学生から直接、身近に話が聞けた。</u>」などのコメントがあり、<u>学生の態度や専門的な知識、コミュニケーション能力がおおむね評価されているもの</u>と推察される。 （左端の※へ） 	<ul style="list-style-type: none"> 健康科学科 3 年次生 37 名 協力者： 県立広島大学 地域連携センター 健康科学科 当該実習担当教員
<p>※</p> <p>【総括と評価】</p> <p>参加学生のコメント等から、本講座の意義に対する評価とともに、この実践が<u>個々の学生の学修意欲の向上・再確認の機会</u>になっていることがうかがえる。また、学外者との会話等が、<u>実践的な学修の機会</u>を提供し、<u>学生の成長を促している可能性</u>が示唆される。</p>		